

楷

第五十八号

岡山大学
附属図書館報
OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

KAI

No.58

2014

FEBRUARY



<写真>

山なすび

叢生ノ樹ナリ秋實

熟シテ黒シ大豆ノ大サ

ニシテ丸シ小兒食之

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」（岡山大学附属図書館所蔵池田家文庫より）

— 目 次 —

- 100周年を迎える資源植物科学研究所とそれを支える学術資料
（資源植物科学研究所分館長 佐藤和広）…………… p.2
- 岡山大学附属図書館の将来構想を考える（提言）
（中央図書館利用者サービス実施検討WG委員長 沖陽子）…………… p.4
- マイライブラリを活用しよう（学術情報サービス課）…………… p.7
- まちなか連想ビブリオバトルの実施について（鹿田分館グループ 大園隼彦）…… p.9
- Altmetricsの指標から見る岡山大学学術成果リポジトリの利用傾向
（鹿田分館グループ 大園隼彦）…………… p.10
- マスカット…………… p.12
オープンアクセス広報キャラクター決定、植物研分館常設展示特別版「大原農研と
皇太子殿下行啓」について ほか
- 会議・研修・編集委員会から…………… p.16

100周年を迎える資源植物科学研究所と それを支える学術資料

佐藤 和 広

はじめに

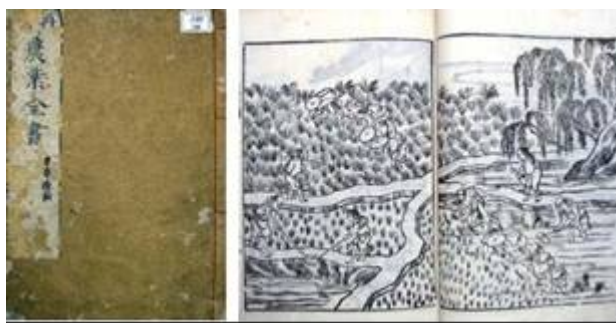
岡山大学資源植物科学研究所は2014年7月に100周年を迎えます。その前身となった大原農業研究所は倉敷紡績の社長であった故大原孫三郎氏により、大正3(1914)年7月財団法人大原奨農会の農業研究所として設立されました。皆さんもよくご存じの倉敷中央病院(1923年)そして大原美術館(1930年)も大原孫三郎氏が倉敷に設立した施設です。しかし、大原農業研究所が最も古く設立されたことはあまり知られていません。研究所が設立された当時、国立大学の農学部は東京大学と北海道大学にしかありませんでした。研究所は戦後岡山大学の組織の一部に加わり附置研究所となりましたが、国立大学の附置研究所の中でも100年以上の歴史を持つのは東京大学の史料編纂所と医科学研究所のみとされています。現在、研究所は文部科学省が指定する共同研究・共同利用拠点として、全国唯一の農学に関する大学附置研究所となっており、植物研究に関する世界的な成果が数多く発表されています。

研究所分館

岡山大学附属図書館資源植物科学研究所分館は、前身の大原農業研究所農業図書館時代も含めて大正時代から続く歴史のある図書館です。農学系の図書館としては我が国屈指の蔵書・資料数を誇ると共に、現在貴重書となっている設立当初に収集した書籍を所蔵しています。これらは大原孫三郎氏の命により研究者が買い集めたもので、大原孫三郎氏が文化研究施設を設立するにあたって、書物や絵画などの収集を重んじていたことが伺い知れます。現在、分館に収蔵されている主なコレクションは以下の通りです。

大原農書文庫

大正10～13年にかけて継続的に収集された農書コレクション。全2,576冊。近世期の刊本を中心とするが、明治以降の刊行物もかなりの点数にのぼり、漢籍の和刻本および漢籍そのものも含まれている。内容は多岐にわたるが、主体は本草書と近世期および明治期の農書で、近世期については、わが国最初の刊行農書である「農業全書」などをはじめ、養蚕や園芸の分野に至るまで、この時期の基本的な農書はかなり収集されている。



大原農書文庫から「農業全書」(1697成立)出版された日本最古の農書として知られる

大原漢籍文庫

大原孫三郎氏の命により、大正12年11月、研究所員西門義一および囑託職員の松本圭一両

氏が中国で収集した漢籍コレクション。全 4,720 冊。農書と本草書のほか、動植物や治水に関する文献および叢書の類など、農業に関する基本資料を収集したものである。

ペッフアー文庫

ドイツの元ライプチヒ大学教授 W.ペッフアー(Pfeffer)博士(1845-1920)の蔵書、全 11,730 冊。1921 年、前年に亡くなったペッフアー博士の蔵書が売りに出され、大原孫三郎氏の命により一括購入された。当時の植物生理学の世界的な権威であったペッフアー博士の蔵書は、植物学関係の歴史的にも貴重なコレクションとなっている。

分館の役割とその変遷

私が研究所に着任した平成元年には、電子ジャーナルどころかインターネットも普及しておらず、冊子体の雑誌を各号ごとに目を通すのが研究者の日常でした。図書館にも足繁く通い、アブストラクト専門の書誌情報誌などを読んで、購読していない雑誌の文献複写依頼をしましたが、農学関連の書籍と雑誌が充実した分館は日本の農学研究者にとってあこがれの的でした。そのころの分館には、研究者や農学部の学生が文献複写をしに訪れていたのを思い出します。Nature や Science が 1 巻 1 号から揃っている整備された分館は今でも日本を代表する専門図書館の一つです。一方で、現在これらの雑誌が契約さえすれば誰でも見ることができ、アブストラクトなど無料で電子ジャーナルのホームページから入手できるようになったのは隔世の感がします。設定すれば雑誌各号の目次もメールで送信されてくるのですから、いくら分館がすぐそこにあってもなかなか足を運びづらくなりました。

中央図書館と鹿田分館の改修で岡山大学の図書館は大きく変わろうとしています。特に大学院生と研究者からなる植物科学の専門図書館が今後どのように活用されるべきか、真剣に考える時期が来ています。たとえば、遺伝子やゲノムの配列と出版物を結びつけることは現代の植物科学にとってなくてはならない情報であり、今後、図書館に存在する電子出版情報を活用した植物情報科学のような専門分野が生まれる可能性は十分考えられます。

分館に収蔵されている貴重書は図書館の歴史と格式を示す大事な資料ですが、古いドイツ語や中国語の書籍を使いこなして原稿を書く機会はなかなかなく、分館長の私でも貴重書庫に入ることは来客の案内以外ほとんどありません。普段目にするものがない貴重書に日本語の目次やサンプルページなどを電子化して公開することは、貴重書を活用する大事な作業のひとつだと思います。また、これらを自然科学史など研究所の専門以外の研究分野で活用することも大事な視点です。なお、分館ではこのような書籍を活用するために、テーマを設けて一部の貴重書の図版などを展示する研究者および市民への一般公開を行っています。

おわりに

植物研分館は史料館と命名されており、書籍の閲覧だけでなく、常設で研究所の歴史的資料や古い実験器具、めずらしい装丁の貴重書の展示などを行っています。研究所が 100 周年を迎えるにあたって、ぜひ倉敷にも足をお運びいただき、その歴史の一部を分館でご確認ください。あわせて、研究所の弟分である大原美術館は、岡山大学の学生証があれば無料で入館できますので、分館と共に大原孫三郎氏が残した財産を是非ご覧になってください。

(さとう・かずひろ 資源植物科学研究所分館長)

岡山大学附属図書館の 将来構想を考える（提言）

沖 陽 子

はじめに

変革する大学にあって求められる大学図書館像は、現在、大きく変わろうとしています。岡山大学附属図書館も耐震改修工事を機に、学修支援、教育活動、及び研究活動へ直接関与できる空間の整備を行い始めています。現在の図書館の使命の中で、特化して「学修の場」を付加させるためには、利用者のニーズと多機能性との融合、適材適所の人的支援体制並びに空間の確保が必須であることが想定されます。そこで、この課題を解決するために、「中央図書館利用者サービス実施検討ワーキンググループ」を設置しました。ワーキンググループは附属図書館執行部、両分館長、学修支援や教育活動、研究活動に関わりの深い全学センター教職員並びに関連部署の職員、さらに岡大生協や学生の委員により構成されています。本ワーキンググループで、中央図書館に限定せず附属図書館全体の機能強化を目的とした将来構想を検討すると共に、耐震改修工事や図書館整備に関して利用者サービス実施の視点より提言を行うことにしました。平成26年2月末に提言がまとまりましたので、ここに紹介します。

提言の概要

「学生の主体的な学びの確立に向けた大学教育の質的転換」を実現するために、附属図書館の改修を機に、図書館に集積された知を教育に活用する空間、並びに、現役の学生、教職員のみならず、卒業生や退職した教職員を含めた人材が集い活躍する場所として整備し、学部や研究科の境界を越えた全学的な活動が可能で、学都岡山、全世界で活躍する人材輩出のための基盤であるリベラルアーツ*を醸成する場としての附属図書館に改革する。また、分館を含めた全学的なりベラルアーツ醸成の象徴として、中央図書館の周辺を知好楽**ゾーン（知的交流ゾーン）と位置づけ、学生達を核とする知の活動の拠点、異世代交流や異分野交流の出会いの場とする。

*リベラルアーツ：大学で身につける学士力に関わる基盤教養で、多角的な視点形成、論理的な思考力と分析力、異文化理解と主体的な自己形成、コミュニケーション能力などの基盤となるもの。

**知好楽：「論語雍也編」より引用した言葉。「知る」ことは「好む」ことには及ばない。「好む」ことは「楽しむ」ことの奥深さには及ばないこと。



事業の具体的な取り組みと考え方

1. グローバル化時代を生き抜く「知」の交流拠点形成

「知」とは、既に集積された固定的なものではなく流動的であり、対話や交流により構築し、さらにそれを活用する活学でなければならないという概念を基盤とする。そして、「知好楽」に示す通り、奥深い「楽」の境地にまで導く必要がある。

(1) 新たなリベラルアーツ拠点の形成

- ① 新たな学修の場としての図書館の活用と設備の充実
- ② ラーニングコモンズを活用する次世代の新たな教育プログラムの開発とクラスの実施
 - ・ クリティカルシンキング(検証的思考)やコミュニケーション能力を育成する岡大版プログラムを開発
 - ・ 専門や教科内容に関連した日本語・英語の作文能力を鍛える教育活動を実施
- ③ 学生主導型の講義開講やイベントの企画
- ④ サロンの空間を活用したカルチャースクール形式の企画
 - ・ 学生や社会人生涯教育を含めたカルチャー教育を行い、単位化することや資格取得教育を検討
 - ・ 退職教員や大学院生による研究論文などの指導や相談・対話、あるいは講義形式とは異なる教員との語らいの場づくり

(2) 学修支援のための新たなギャラリー構想

- ① 学術情報資源の体系的展示による学修支援
 - ・ 学生への興味を喚起するテーマを選定・展示する多様な企画を組織し、展示と交流により自ら取り組むべき課題を見いださせる。講義と体系的展示との融合を検討
- ② 大学保有の多様な学術情報資源の有機的連携
 - ・ 多様な前身校を持つ岡山大学の総合大学としての時間的、空間的、分野的スケールメリットを活かして、3Dを活用しながらキャンパス全体を利用した展示展開、多文化交流、異分野交流、産学連携、地域連携など多様な展示と交流を展開
- ③ 課外活動(サークル・地域活動)の実施・成果発表及びサークルによる生演奏やBGM
- ④ 写真や絵画の展示による感性の研鑽と展示スキルの研修

(3) グローバル社会や地域との実践型連携教育の拠点

- ① グローバル人材育成のための多文化交流として、留学生による自国の紹介を輪番制で企画。
- ② 地域との連携(企業・行政・NPO法人など)として、地域の文化拠点(自治体図書館、美術館など)との連携や企業の寄付セミナーの開催など、地域総合研究センター(アゴラ)と連携しながら教育共同プログラムを企画・実施する。

(4) 研究支援サービスの充実

- ① 大学院生・若手研究者への学術支援(自己習得が容易でない統計ツールなどの使用方法講習会開催など)
- ② 学内外で未整理の研究データを網羅的に整備・提供
- ③ 研究者達へのサロンの空間と連結したレンタルスペースの設置

(5) 知好楽ゾーン(知的交流ゾーン)の構築

図書館を拠点とした情報統括センター、岡大生協、国際交流会館を取り込むエリアを知好楽ゾーンと位置づけ、学生達の知の活動の拠点、異世代交流や異分野交流の出会いと交流の場とする。館内あるいは館外に飲食できる学修の場の設置も考える。



2. 「知」の交流を活性化する人的ネットワークの形成

～諸活動を担う人財登用システムの構築と管理～

「知」の交流のための諸活動を実施するためには、学生を主体に取り巻く環境に、多種多様な人の繋がりを展開させる制度化した人財の活用並びに研修・配置が必要となる。

(1) 現役大学院・学部学生、留学生、卒業生などの活用 (WS (ワークスタディー) などを利用した TA (ティーチング アシスタント) ・LA (ラーニング アドバイザー) ・SA (スチューデント アシスタント) など)

(2) 専門性を有する教職員の雇用と研修 (若手教員、特別契約職員、UEA (ユニバーシティ エデュケーション アドミニストレーター) ・LA などの専門職員、図書館職員の登用)

(3) 退職教職員の再雇用

(4) 行政・企業・NPO 法人などの地域人の登録

(5) 専門性の必要な業務の場合、その研修が受けられる講習会を設定

(6) 教育事業においてはインストラクターとしての資格審査を実施

(事業実現のための実施体制)

スムーズに事業を実現させるために、効率的な実施体制を配置または整備する。

期待される成果

グローバル化時代を生き抜く知と心、すなわち深い普遍的知性、検証的思考、主体性、協働する能力、創造性、対話力と豊かなマインドを備えた人材を岡山大学より輩出し、彼らが「学都 岡山」の創成に関わると共に、世界に大きく羽ばたくことが期待される。また、附属図書館主導で構築される人的ネットワークが、関わる学内外の人々に夢と希望を与える源になり、図書館に強化される様々な機能が構成する多重空間の中で、それらの共鳴効果が享受されることになる。

おわりに

以上、附属図書館の今後の機能強化と多様性を、本学の大学改革の路線上で描くとともに、利用者が自然と集まる空間の整備、並びに的確な人的支援体制を構築して具象化する構想を示しました。今回の提言には、ワーキンググループ学生委員あるいは下部組織である分科会や勉強会を通して、学生の皆さんの提案や希望を最大限に取り入れています。また、提言の中に新たな図書館像をイメージする「知好楽」という考え方を導入しました。これは「知」を楽しみ、活用する心を図書館を通して得て欲しいという願いが込められています。これからの図書館の活動を大学構成員全員で支えていただきたいと思います。

(おき・ようこ 中央図書館利用者サービス実施検討WG 委員長)

マイライブラリを活用しよう

学術情報サービス課

2014年2月1日 からマイライブラリのサービスが一部拡大しました。

学生限定だった「借用中の資料の貸出期間延長」「貸出中の図書の予約」のサービスが教職員の皆様にもご利用いただけるようになりました。

●マイライブラリとは




図書館のサービスの一部を Web 上で利用できる、個人専用のページです。

●どんなことができる？

- ・貸出中の図書の予約(中央図書館所蔵資料を中央図書館で受け取る場合のみ。鹿田分館所蔵資料は鹿田分館カウンターにお申し出ください。)
- ・借用中の資料とその貸出期間の確認
- ・借用中の資料の貸出期間の延長(雑誌や講義関連図書など延長できない資料もあります)
- ・Web 上から学外への文献複写・現物貸借を依頼

●マイライブラリの申込方法とログイン ID・パスワード

貸出カードの種類、希望するサービス内容に応じて申込の要不要、申請書が異なります。

サービス内容 貸出カードの種類	貸出中の図書の予約 借用中の資料と貸出期間の確認 借用中の図書の貸出期間の延長	学外への文献複写・現物 貸借の依頼
IC 学生証 	不要	要(文献複写・現物貸借 用申請書)
IC 教職員証 	要(図書の予約用申請書)	要(文献複写・現物貸借 用申請書)
Library Card (上記以外の 学生・教職員) 	要(図書の予約用申請書)	要(文献複写・現物貸借 用申請書)

岡山大学附属図書館ホームページ→右側アイコン「マイライブラリ 使い方」→「申込方法とログイン ID・パスワード」をご参照ください。

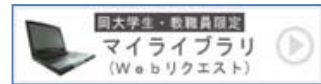
(URL : <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/support/webrequest.html>)

「要」とある場合は、指定の申請書をダウンロードして必要事項を記入の上、図書館に提出してください。ログインのための利用者 ID と初期パスワードを発行します。

「不要」とある場合は、上記サイトで利用者 ID と初期パスワードをご確認いただけます。

●ログイン

岡山大学附属図書館ホームページトップ画面→右側アイコン「マイライブラリ (Web リクエスト)」をクリックします。
 利用者 ID、パスワードの入力欄が表示されます。
 利用者 ID、パスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします (右図)。



ログインに成功すると以下画面が表示されます。



●貸出期間延長

- ①上記画面「借用中の資料」の「詳細を見る」をクリックします。
- ②延長したい資料にチェックし、「貸出期間の延長」ボタンをクリックします。



●予約

- ①上記画面左上の検索窓に予約したい資料名等を入力して検索します。
- ②「予約」ボタンをクリックします。「確認に進む」→「この内容で予約」で完了です。
 ぜひご活用ください。



まちなか連想ビブリオバトルの 実施について

大園隼彦

ビブリオバトルは本の紹介を中心としたコミュニケーションゲームである。簡単に内容を紹介すると、本の紹介者はお勧めの本を5分間で紹介し、紹介の後に参加者と2～3分のディスカッションタイムを行う。全ての本の紹介後、一番読みたい本を参加者の投票で決定するという流れになる。その活動は「人を通して本を知る、本を通して人を知る」をキャッチコピーに日本全国に広がりつつある。

○実施内容

まちなか連想ビブリオバトルは地域総合研究センターのまちなかキャンパス事業に応募して実施した。通常のビブリオバトルと異なるところは、岡山大学の講義内容から連想した本を紹介するビブリオバトルであるという点である。本年度は2回実施し、第1回は文学部の倉地先生の協力で岡山シティミュージアムで開催し60名の参加があり、第2回は文学部の今津先生の協力で文学部で開催し25名の参加があった。

○ビブリオバトルの可能性

2012年度の国内の出版点数は約82,000点あり、多くの優れた本と出会うには如何にして効果的に本を選択するか、ということが重要になる。大都市では著名人を招いて読書に関するイベントが活発に開催される等、本と出会える魅力的な空間が増えているが、地方都市で同様な空間を構築・維持することは困難であると思われる。そこで注目するのがビブリオバトルになる。ビブリオバトルの主役は読者である。県立図書館を中心に図書館の利用が盛んである岡山県では、ビブリオバトルを広めることで読書コミュニティの情報共有を促進し、より魅力的なイベントへと発展する可能性を秘めていると思われる。

○今後の展開

今年度は講義連携と地域公開という2つの目的でビブリオバトルを実施したが、目的は一つに絞った方がより魅力あるイベントにできたのではないと思われる。例えば、今回は発表者を岡山大学の学生に制限したが、そのような限定を無くした方が、より魅力的なコミュニティの構築に繋がるだろう。平成26年5月9日には図書館がリニューアルオープンし、ラーニングコモンズが新たに誕生する。このようなアクティブに活動できる空間を活用する一つの仕掛けとして、地域に公開した情報共有の場としてビブリオバトルを定期的実施していきたいと考えている。



第1回ビブリオバトルの様子

(おおぞの・はやひこ 鹿田分館グループ)

Altmetrics の指標から見る

岡山大学学術成果リポジトリの利用傾向

大園隼彦

「Altmetrics の指標から見るオープンアクセス論文の学術情報流通の特徴」を研究テーマに平成 25 年度の科学研究費補助金(奨励研究)に採択された。岡山大学学術成果リポジトリ (OUSAR) に登録しているコンテンツを対象にオープンアクセス論文の利用傾向を調査したので、この場を借りて報告する。

Altmetrics は “alternative metrics” を略した造語で、論文レベルのインパクトを即時に表示するという特徴がある。Twitter、Facebook、ブログ等のソーシャルメディアや Mendeley 等のオンラインレファレンスソフトを情報源に学術コンテンツの Web 上の反応を収集し、従来の引用ベースの指標を補完することを期待されている。

調査にあたって、OUSAR に Altmetrics の機能を導入した。様々なサービスが Altmetrics を提供しているが、OUSAR では Altmetric.com を採用した。無償、導入が容易、管理ツールの存在が主な理由である。Altmetric.com は Altmetrics を利用するための API を無償で提供しており、比較的容易に機関リポジトリシステムに導入することが可能である。

Altmetrics を調べるには PubMedID や DOI (Digital Object Identifier) といった論文固有の識別子をキーにしてコンテンツを特定する必要がある。OUSAR のコンテンツでは Acta Medica Okayama に PubMedID が付与されており、それを対象に利用動向を調査した。Altmetric.com は各情報源を独自に重み付けし、Altmetric Score という指標を算出している。Acta Medica Okayama は 2014 年 1 月時点で 30 論文にその値を確認でき、最高値は「6」であった。Altmetrics という考え方が 2009 年頃に誕生したものであり、またその主な情報源であるソーシャルメディアも最近 10 年以内にサービスを開始しているので、値のある論文は近年のものに偏っている。Acta Medica Okayama 全体で 30 論文しか値を持たないことは少ないように思われるが、生医学系論文における Twitter の反応を調査した Hausteina ら (2013) の調査によると、PubMed 等に登録されている 2010 年から 2012 年の論文の 9.4% が最低 1 回 tweet されている。Acta Medica Okayama は、同期間の論文の 13.4% (15/112) が tweet されており、Twitter に限って言えばその反応数は少なくはない。Altmetric Score は全体的に低く、多くの論文が「1」である。ブログや Twitter、Facebook で取り上げられてはいるが、その反応は単発で終わり、拡散していないことがわかる。その反応の内容を見てみると、特定のトピックを取り上げて、自閉症の研究所、健康食品会社、心理療法士、栄養士、薬剤師、健康情報サービス (以上、Twitter、Facebook)、科学ライター (ブログ) が言及している他、科学情報を発信する bot による tweet も見られた。これらのことからソーシャルメディアでの利用は研究者ではなく、一般の人を対象にしたものが主目的であると思われる。以上の利用傾向から分かりますとおり、引用数と Altmetric Score の間に相関関係はなかった (図 1)。一方ダウンロード数について見ると、OUSAR のコンテンツの大半は学術組織ではないドメインからのアクセスが大半であり、学術利用以外の目的でアクセスされていると思われるが、Acta Medica Okayama に限ると、その大半は PubMed 経由でアクセスされているので、

学術利用が主目的であると推測できる。しかし、ダウンロード数についても引用数と相関関係はなかった (図2)。

前述の Hausteim らの研究によると、Twitter の利用と引用数の間の相関関係は低く、両者は異なる指標である。Acta Medica Okayama に関しても、Altmetric Score と引用数の関係、ソーシャルメディアにおける反応の内容、オープンアクセス論文のダウンロード数と引用数の関係を確認する限り、同様に Altmetrics は従来の引用をベースにした学術的なインパクトとは異なる指標であり、それを補完するものと思われる。

今回は Acta Medica Okayama に限った調査となったが、それは OUSAR に登録されているその他のコンテンツの多くは固有の識別子を持たないことが一つの理由である。OUSAR の中でも多くの割合を占めている人文社会科学分野の日本語の文献については、引用ベースの指標が十分に普及していないため、Altmetrics がより重要な指標となる可能性がある。今後、Altmetrics の有用性についてはさらに研究が進むだろうが、機関リポジトリのコンテンツに DOI が付与され、Altmetrics を測定できる環境が早期に整うことを期待する。

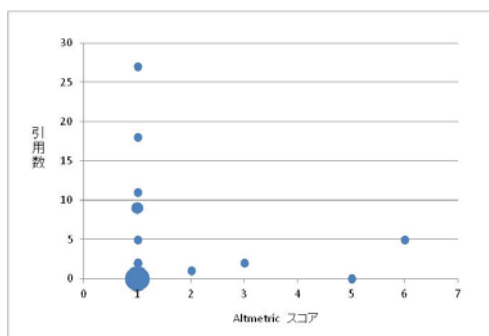


図1. Acta Medica Okayama
引用数対 Altmetric スコア (2014.1.31 時点)

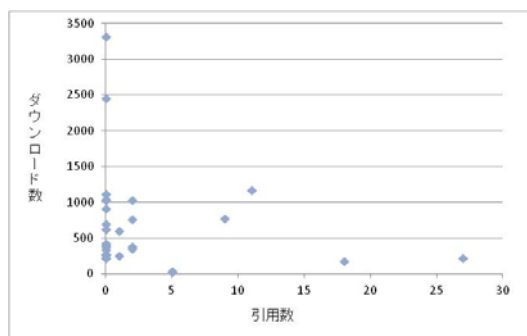


図2. Acta Medica Okayama
ダウンロード数対引用数 (2014.1.31 時点)

参考文献

- Embeddable Badges <http://api.altmetric.com/embeds.html> (最終アクセス 2014.02.21)
- 大園隼彦 (2013) Altmetrics の概要と機関リポジトリの導入
<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?DRF10>
- Hausteim, S., Peters, I., Sugimoto, C. R., Thelwall, M. and Larivière, V. (2013), Tweeting biomedicine: An analysis of tweets and citations in the biomedical literature. J. Am. Soc. Inf. Sci.. doi: [10.1002/asi.23101](https://doi.org/10.1002/asi.23101)
- 林和弘 (2013), [研究論文の影響度を測定する新しい動き- 論文単位で即時かつ多面的な測定を可能とする Altmetrics -](#) 科学技術動向 (2013 年 3・4 月号)

(おおぞの・はやひこ 鹿田分館グループ)

マスカット

オープンアクセス広報キャラクター決定

オープンアクセスとは、インターネット上で誰もが無償で論文などの学術情報を利用できるようにすることです。オープンアクセスウィーク (Open Access Week) は、オープンアクセスを広めるための世界的なイベント週間で、岡山大学附属図書館でも 2013 年のオープンアクセスウィーク (10 月 21 日～27 日) 中にオープンアクセス広報キャラクターの名称を公募する企画を実施しました。

よく考えられたものやユニークなものなど、さまざまな案がありましたが、親しみやすく覚えやすいことから、キャラクター名称はフクロウとさせていただくことに決まりました。

オープンアクセスな論文データが大好きなフクロウのフクロウを今後もオープンアクセスの PR に活用させていただきたいと思いますので、引き続きご支援のほどよろしくお願ひします。

オープンアクセス特設サイト

URL: <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/oa/>



学問の神、英知の象徴とされるフクロウに似たインターネット上の生物。特に 10 月後半のオープンアクセスウィークには頻繁に姿を現す。オープンアクセスな論文データが好物で、頭にのせて持ち運ぶ。

植物研分館常設展示特別版「大原農研と皇太子殿下行啓」について

平成 25 年 12 月 19 日 (木) から平成 26 年 3 月 31 日 (月) まで、植物研分館において「大原農研と皇太子殿下行啓」というテーマで展示を行っています。資源植物科学研究所の前身である大原奨農会農業研究所 (大原農研) が、大正 15 年に皇太子殿下 (後の昭和天皇) をお迎えした際の事務記録と当時の写真・動画をもとに、行啓の際の状況や資料を紹介する展示で、研究所 100 周年の関連事業ともなっています。当館に残る事務記録は貴重な一次資料であり、当時の事情・時代の雰囲気を感じることができる興味深い展示となっています。



植物研分館展示貸出実施報告

昨年度に引き続き、過去に植物研分館で開催した企画展示を公共図書館で行いました。今年度は1月に倉敷市立中央図書館で「癒しと植物」、2月に早島町立図書館で「四季の花木」を展示しました。研究所という一般の方には馴染みの薄い施設の貴重資料を紹介する数少ない機会です。どちらも地域住民の方々に多数ご覧いただきました。これからも続けていきたいと考えています。



平成 25 年度池田家文庫絵図展報告

平成 25 年 11 月 4 日（月・祝）から 17 日（日）まで、岡山シティミュージアムを会場に池田家文庫絵図展「開国と岡山藩」を開催しました。会期中には東京大学史料編纂所教授の横山伊徳氏による講演「開国と開港」などの関連行事も開催し、1,311 名の方にご来場いただきました。



平成 25 年度池田家文庫 こども向け岡山後楽園発見ワークショップ（冬）報告

平成 26 年 2 月 15 日（土）に岡山大学教育学部と附属図書館の共催による「池田家文庫こども向け岡山後楽園発見ワークショップ」（平成 25 年度冬）を開催しました。

通算第 15 回目となる今回は、参加者 11 名（同伴者と併せて 31 名）が学生の演じる紙芝居で後楽園の歴史を勉強した後、4 チームに分かれて複製絵図とカードを使って行き先を探し道順を考えながら、後楽園の散策を楽しみました。

次回は平成 26 年 7 月 19 日（土）開催予定です。



平成 25 年度岡山大学公開講座「池田家文庫絵図をもって岡山を歩こう パート2」報告

平成 25 年 5 月の第 1 回、同年 6 月の第 2 回に続いて以下のとおりに開催しました。両日とも好天に恵まれ、多数の方にご参加いただきました。

第 3 回「後樂園を歩く」

開催日：平成 25 年 10 月 26 日（土）

場 所：岡山後樂園

講 師：岡山県郷土文化財団

万城あき氏

第 4 回「岡山城外堀に沿って寺町を歩く」

開催日：平成 25 年 11 月 30 日（土）

場 所：岡山市番町交差点

～大雲寺交差点

講 師：岡山空襲展示室 猪原千恵氏



学生と附属図書館長・鹿田分館長との懇談会（中央図書館）（鹿田分館）

中央図書館では、平成 25 年 12 月 24 日（火）に農学部、文学部、環境生命科学研究科、社会文化科学研究科の学生 9 名の参加を得て、今年度 2 回目の学生館長懇談会を開催しました。今回は、留学生を含めた文系、理系の学生に一同に集まっていただきました。懇談会では、図書館資料の充実、グループ学習スペースの利用などについて積極的なご要望やご提言を頂きました。

鹿田分館では、平成 25 年 11 月 12 日（火）に医学科、歯学部、保健学科、保健学研究科の学生 14 名の参加を得て、学生分館長懇談会を開催しました。懇談会では、施設・設備、サービス、広報などについてたくさんの貴重なご意見をいただきました。

ご要望のあったことについては実現できることから対応させていただきます。また、ラーニングコモンズなどリニューアル後の図書館の設備についてもご意見を反映してまいります。

少しでも使いやすい図書館となるよう、学生のみなさまのご意見を運営に役立てていきたいと思っておりますので、来年度も中央図書館と鹿田分館の学生館長懇談会にぜひご参加ください。

中央図書館ミニ展示

中央図書館では、定期的に「ミニ展示」で図書館内の本をご紹介します。館内で見かけた際は、ぜひ手にとってみてください。

平成 25 年 10 月から現在まで、ミニ展示を以下のテーマで行いました。



- 10月 「ハロウィン特集」
- 11月 「働く」
「第1回ビブリオバトル」
- 12月 「映画の日特集」
「クリスマス&正月特集」
「ブックハンティング展示」
- 1月 「黒田官兵衛と戦国」
- 2月 「第2回ビブリオバトル」

ブックハンティング報告（中央図書館）

平成 25 年 12 月 4 日(水)、ジュンク堂書店岡山店にて平成 25 年度附属図書館中央図書館ブックハンティング（学生選書ツアー）を実施しました。179 冊選定のうち重複をのぞいた 165 冊の図書を購入し、12 月 24 日(火)から新館 1F 南階段付近で「ブックハンティング」のミニ展示を開催しました。今回は参加者に「おすすめのことば」を書いていただき、図書と一緒に展示しました。

ご参加いただきました 7 名(うち 5 名が理系!)の方、ご協力ありがとうございました。

早朝開館実施報告（中央図書館）

中央図書館では平成 26 年 1 月 20 日(月)から 2 月 10 日(月)までの平日、従来の開館時間を 40 分繰り上げ、8 時から開館する早朝開館を実施しました。

繰り上げた時間(8 時～8 時 40 分の 40 分間)の入館者数は、16 日間で合計 550 人でした。好評につき来年度の試験期間にも早朝開館を実施する予定です。

オリエンテーション・データベース講習会実施報告（中央図書館）

中央図書館では平成 25 年 7～10 月にオリエンテーション等を実施し、延べ 76 名の方にご参加いただきました。

オリエンテーション

実施日	対象	参加者数
10 月 2 日	新任教員	3
10 月 5 日	放送大学学生	10
10 月 8 日	新入生	1

図書館・文献検索ガイダンス（図書館職員による）

実施日	対象	参加者数
7 月 24 日	言語教育センター教員	6
10 月 16 日	教育学部国語科学生	17

データベース講習会（外部講師による）

実施日	講習会名	参加者数
10 月 4 日	JapanKnowledge	9
10 月 9 日、10 日	SciFinder Web 版	30

教員からの寄贈図書リスト

次の方から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

<中央図書館>

沢山美果子[文学部]

近代家族と子育て——吉川弘文館, 2013.3

(367.3/S)

会議

◆学外

- 25.10.2 平成25年度第1回機関リポジトリ推進委員会
(於：国立情報学研究所)
- 25.11.14～15 第49回日本医学図書館協会中国四国地区総会 (於：徳島大学)
- 25.11.15 平成25年度国立大学図書館協会中国四国地区協会実務者会議 (於：高知大学)
- 25.11.29 第75回国公立大学図書館協会委員会
(於：早稲田大学)
- 25.11.29 中国四国地区国立大学図書館所管部課長会議
(於：岡山大学)
- 25.12.13 平成25年度第2回機関リポジトリ推進委員会
(於：国立情報学研究所)
- 26.1.24 第16回学位論文電子化の諸問題に関するワーキング・グループ
(於：国立国会図書館 関西館)
- 26.2.28 平成25年度国立大学図書館協会中国四国地区協会事業委員会総会 (於：岡山大学)

◆学内

- 25.11.26 平成25年度第3回附属図書館運営委員会
- 26.1.9～24 平成25年度第2回附属図書館運営委員会鹿田分館分科会 (メール会議)
- 26.1.24 平成25年度第2回附属図書館運営委員会資源植物科学研究所分館分科会・図書委員会

研修

- ・ハラスメントの防止等に関する講演会
参加者 山根 博 (25.10.1)
- ・平成25年度岡山大学若手職員塾
参加者 飯田 智美 (10.11)
- ・平成25年度第3回 SPARC Japan セミナー
参加者 大園 隼彦 (10.25)
- ・第15回図書館総合展
参加者 川村 眞、大園 隼彦 (10.29-31)、
西村 朋子、田中 智 (10.30-31)
- ・Q-conference2013 (Q-Links 年次報告会)
参加者 飯田 智美 (11.2)
- ・第4回男女共同参画に関する管理職セミナー
参加者 富田 健市、川村 眞 (12.4)
- ・平成25年度京都大学図書館機構講演会
参加者 岩佐 美紀 (12.11)
- ・平成25年度国立大学図書館協会地区助成事業 (中国四国地区)「実務ワークショップ (ILL)」
参加者 岩佐 美紀 (12.20)
- ・JAIRO Cloud 説明会・講習会
参加者 大園 隼彦 (26.1.28-29)
- ・平成25年度国立大学図書館協会学術情報流通改革シンポジウム
参加者 田原 誠、富田 健市、山根 博 (1.28)
- ・イーリサーチとオープンアクセス環境における学術コミュニケーションの総合的研究 研究成果報告会
参加者 大園 隼彦 (2.8)

編集委員会から

ソチ・オリンピックをテレビ前で応援しました。応援に力が入るとともに感動する場面がたくさんありました。選手の話で、華やかな舞台裏にはとても苦労があったことが分かりました。ご本人の大変な努力はもちろんのことですが、多くの協力があつてのこと。努力を続けること、あきらめないことの大事さを感じるとともに良い話が聞けたオリンピックでした。そして、年を重ねて、涙もろくなった私を感じました。

中央図書館、鹿田分館は5/9にリニューアルオープンいたします。附属図書館は利用者の皆さんが利用しやすいように色々と考えております。期待して下さい。(S.K.)

岡山大学附属図書館報「楷」 No.58 平成26年2月28日

発行人 富田健市 編集 広報誌編集委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1-1

ホームページ URL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>